

血液・内分泌・代謝内科	
診療科目：血液・内分泌・代謝内科	
診療科担当研修責任者名： 曾根 博仁（血液・内分泌・代謝内科診療科長）	
診療科連絡先担当者名： 藤原 和哉（血液・内分泌・代謝内科エデュケーショナルマネージャー） 山田 貴穂（血液・内分泌・代謝内科 副総括医長） 片桐 隆幸（血液・内分泌・代謝内科エデュケーショナルメンター）	
受入期間：1ヶ月以上（ただし、1年目研修医は2ヶ月以上）	同時受け入れ可能数：8人以内
◇◇学会認定専門医数◇◇	
総合内科専門医28人、血液専門医17人、糖尿病専門医24人、内分泌代謝専門医7人、がん薬物療法専門医2人、輸血・細胞治療学会認定医5人、がん治療認定医9人、日本造血細胞移植学会認定医4人、動脈硬化学会専門医2人	
◇◇学会認定指導医数◇◇	
内科学会指導医18人、糖尿病学会指導医5人、内分泌学会指導医4人、血液指導医13人	
診療科の概説・特徴	診療科研修の特徴
全国的に内科の臓器別細分化が進む中、血液・内分泌・代謝分野を含む当科は、急性から慢性、重症から軽症、若年から老年、腫瘍から動脈硬化・生活習慣病までを幅広くカバーできる「総合内科」的アプローチを重視している。そして大学病院と市中病院の良い点を組み合わせたフレキシブルな研修プログラムにより、最新の知見・技術と豊富で多彩な症例経験を兼ね備えた国際的に通用する専門医を輩出してきた。血液学は臨床腫瘍学の最先端として進歩し続けている分野であり、内分泌・代謝学は患者が最も多く、健康寿命延伸実現の先頭を走る分野で、共に極めて国民的ニードが高く、一生をかけるに値する分野である。 古い大学医局のイメージとはかけ離れた温かい教育的雰囲気は、患者さんに寄り添う人間性豊かな専門医養成のために、当科が最も大事にしている特長の一つで、学生・研修医教育には定評がある。 研究についても、教科書やガイドラインを書き換えるような臨床研究から、難治疾患の新治療法に直結する基礎研究まで、 いずれも国際レベルで幅広く展開されており、各人の興味と希望によりいつでも経験可能である。	前期研修では、内科専門医をターゲットに当科両分野に関する研修も行う。両分野とも、一臓器でなく環境・心理も含めて全人的に診る能力が要求されるため、内科医としての基礎を身につけるのに最適な分野であり、一例ずつ丁寧な指導を受けながら余裕を持った「考える内科」の研修ができる。選択科目研修では希望により、両分野同時あるいは各分野に絞った研修もいずれも可能である。意欲的な研修医には学会発表も推奨し、さらに高度な内科的思考を身につける指導も行っている。 後期研修プログラムは、希望の将来像（開業、市中病院勤務、大学教員など）あるいは様々な個人的事情（出産・育児、介護、留学など）に応じ個人別かつ柔軟に組まれるのが当科の特長である。血液班または内分泌・代謝班のいずれかに属してそれぞれの専門医を目指すことも、両分野の専門医を同時に取得して（ダブルボード）、現場医療の最前線で多面的に活躍することも可能である。 血液学については、最新技術を駆使した臨床腫瘍学と移植医療が、内分泌・代謝学については、内分泌疾患全般に加え、糖尿病、脂質異常症や肥満、高血圧も含めた生活習慣病全般の予防治療がそれぞれ習得できる。